

私たちの人生に、確かなものは、何一つとしてありません。

若さも、いつまでも続きません。いくら拒んでも老いはじわじわとやってきます。

健康も確かなものではありません。一たび病がおそいかかってくれば、昨日までの健康がうそのように、病床の人とならなければなりません。この大切な生命ですら、いつかは消えていくものです。目さきのこと追われて、忙しく動きまわっている時、私たちは、この老・病・死を忘れていきます。

しかし、忘れていても、老・病・死はなくなりません。そこに、どうしようもない不安の根があるのです。この不安と、どう向きあい、どう克服するかが、私たちの人生の大きな課題であります。

多くの人は、向かいあい直視する勇氣がなくて、一生それらの不安から目をそらして生きています。また、他の多くの人は、それらの不安から逃げつづけて生きています。

しかし、どれほど目をそらそうが、逃げまわろうが、老・病・死は、私たちを見逃してはくれません。

そのことを、私たちは、百も千も承知のはずです。よく知つていながら、目をそらし、逃げまわり、それでいて内心は、いつであろうかと不安におびえて一生を送るとしたら、これほどなさけない話はありません。

しかし、だからといって、老・病・死を直視するだけの勇氣もなく、またそれらを克服する力もありません。生まれ難い人間に生まれ、沢山の命を犠牲にし、その上、多くの人やもののおかげをこうむって生かされていながら、こんなことではないのでしょうか。

いいと思つていないのに、どうにもならず、立ちすくむしかない私たちに、呼びかけてくださる声があります。

「私がいまよ。やるだけやってごらん。どんなことがあつても私はあなたを見捨てません。さあ勇氣を出して、一歩踏みだしてごらん」という南無阿弥陀仏の声があります。

この南無阿弥陀仏に勇氣づけられ、自らやれるだけのことをやって、せつかくの人生を生き抜こう。そうすれば、どこで、どのような形で一生を終ろうとも、南無阿弥陀仏のはたらきによって、浄土にうまれさせて頂けるに間違いのないのです。

正しくお浄土に生まれさせて頂くに間違いのない仲間を正定聚といいます。

私たちも、南無阿弥陀仏のよび声をきき、そのお心を頂くだけで、正定聚に入れて頂くことができるのです。

確かなものが何一つない人生が、間違いなく浄土に生まれる確かな人生となるのです。もう、何もおそれることはありません。老いがせまつてこようが、病がおそいかかつてこようが、また死にのぞもうが、私たちは自分のすべきことを、自分のやれることを精一杯やり抜くだけです。何も心配はありません。

確かな、南無阿弥陀仏の如來さまがいてくださるのですから。

